

区分・種別	史跡		
名 称	うわじまじょう 宇和島城		
所 在 地	宇和島市丸之内		
所 有 者	宇和島市	管 理 団 体	
指定年月日	昭和12年12月21日、平成28年3月1日追加指定		
解 説	宇和島城は、宇和島湾にのぞむ標高80m弱の独立丘陵上に築かれた海城で平山城の形態をとる。慶長元（1596）年、藤堂高虎^{とうどうたかとら}が宇和郡7万石の統治拠点として、中世城郭「板嶋丸串城」^{いたしまるくし}の近世城郭化を図り、慶長6（1601）年に完成。慶長13（1608）年に富田信高^{とみたのぶたか}、元和元（1615）年に伊達政宗の長庶子秀宗^{ひでむね}が入部、明治まで宇和島伊達家9代の居城となる。2代宗利^{むねとし}が寛文4（1664）年から7年をかけ、天守や多くの石垣・矢倉を改修。現在遺存するものは概ね寛文改修のものだが、基本的な城構は藤堂期のままとされる。「宇和島城」と改称されたのは伊達家入部以降で、5代村候^{むらとき}の頃から「鶴島城」^{つるしま}とも呼ばれる。 近代以降市街化により堀は全て埋没、三之丸など総郭約28haが消失、本丸や二之丸など約10haは昭和12（1937）年に史跡に指定された。建造物では、当時国宝指定の追手門が第二次世界大戦により焼失したが、現存12天守の一つで重要文化財の天守と南側登城口城門の市有形文化財上り立ち門が残っている。 平成28（2016）年3月には麓の作事所跡、上級武家屋敷跡の一面が追加指定された。		

